第２回小平市長期総合計画基本構想審議会　会議録（要旨）

開 催 日 時	令和元年９月 19 日（木）午後３時から午後５時
開 催 場 所	小平市福祉会館３階 第１集会室
出　席　者	・委員 18 名 髙橋裕子会長　栗山丈弘副会長 伊藤規子委員　加藤順子委員　川口幸子委員　川地保宣委員 金子惠一委員　神山敬次委員　市東和子委員　鈴木庸夫委員 竹田広輝委員　出口みちたか委員　橋本直子委員　古川満久委員 細江卓朗委員　松尾早智子委員　松田肇委員　矢口誠委員 ・事務局３名 企画政策部長　企画政策部総合計画担当課長 企画政策部政策課長補佐兼総合計画担当係長 ・傍聴者８名
会 議 次 第	１　（仮称）小平市第四次長期総合計画基本構想の検討の進め方について ２　小平市第三次長期総合計画の実施状況について ３　小平市第三次長期総合計画と連動する個別計画等について ４　小平市政を取り巻く状況について ５　小平市長期総合計画策定のための市民アンケート調査結果について
配 布 資 料	事前送付資料 資料１　（仮称）小平市第四次長期総合計画基本構想　検討の進め方 資料２　小平市第三次長期総合計画の実施状況 資料３　小平市第三次長期総合計画と連動する個別計画等 資料４　小平市政を取り巻く状況 資料５　「小平市長期総合計画策定のための市民アンケート調査報告書」の概要 当日配付資料 （仮称）小平市第四次長期総合計画策定に向けた基礎資料集 （仮称）小平市第四次長期総合計画策定状況　ニュースレター

開会	
１　（仮称）小平市第四次長期総合計画基本構想の進め方について	
事務局	資料１に沿って説明。
委員	（質疑なし）
２　小平市第三次長期総合計画の実施状況について及び小平市第三次長期総合計画と連動する個別計画等について	
事務局	資料２、資料３に沿って説明。
委員	（質疑なし）
３　小平市政を取り巻く状況について及び小平市長期総合計画策定のための市民アンケート調査結果について	

事務局	資料 4、資料 5 に沿って説明。
会長	社会潮流や市が今後向き合う課題については広く、市制施行 100 周年を見据えながら捉えると共に、今回策定する次期長期総合計画で共有すべきこととしての論点を整理していく必要があると考えている。皆様から様々にご意見をいただきたい。
委員	少子高齢化によって社会が劇的に変わることに対しての影響を見据える必要がある。一方、市民アンケート調査のまちづくりに関する今後の充実希望度に関する結果によると、安全安心が上位にある。最近では千葉の台風など、地震だけではなく様々な災害が起こっている。 これから変わっていく社会と市民が日頃から意識していることの 2 つに分けて考える必要がある。
委員	第三次長期総合計画では、特に「健康ではつらつとしたまちをめざして」の分野で事業を着実に実施されていることが分かる。
委員	令和8年から令和19年に公共施設の更新需要の大きなピークを迎えるということである。同じものをまた造るのではなく、空いた商店街の店舗を活用し、地域と行政が一緒に運営をしていくなど、これまでの予算のかけ方と違う方法を考える必要がある。公共施設は使っている方と使っていない方がいる。しかしながら、必要な機能ではある。代替えしていくという視点も大事である。 市の財政状況を示す資料によると、民生費の伸びが著しい。子どもや高齢者、障がいの方の福祉、生活保護は大事で、これから先も増えていくだろう。加えて教育の充実。人口減少社会を迎えるが、人口を多少なりとも増やして、安心して子育てができることが大事である。歳入の半分が市税ということは、生産年齢人口の減少によって影響を受ける。収入と支出のバランスをみて、無駄なものをカットする、見直すということをさらに進めることが重要と考える。 市民アンケート調査の結果によると、小平市の一番の魅力の一つに自然環境が良いという回答があった。緑が多いのは私も感じており良いところだと思っているが、緑を残していくためにも人の手間とお金が必要ということも考えていかなければならない問題である。
委員	これから 2025 年問題、2040 年問題、2050 年問題と向き合っていく時代に入る。市の財政状況を示す資料によると、民生費が全体の 50%を占めており、平成 20 年度から平成 29 年度までの 10 年間で約 1.7 倍増加している。今後さらに高齢者が増え、生産年齢人口が減る中で、これから先の 10 年間で民生費がどれだけの額に増えていくのか。さらに令和 8 年頃から公共施設の一つめの更新需要のピークが来るとされている。人口減少・少子高齢化と公共施設・インフラの老朽化を踏まえて小平市の財政をどのように運営していくのかという長期計画が非常に大きなポイントになるのではないか。そういう中で、行政にしかできないことはあるが、行政がやることと、市民ができること、いわゆる行政と市民が協働でやっていくということの検討が必要である。
委員	将来像を決めていくには相当色々な議論を重ねなければならない。第三次長期総合

	計画の実施状況によると、「住みやすく希望のあるまちをめざして」の分野では、新中期的な施策の取組方針・実行プログラムの期間中に、市街地の整備や都市計画道路の整備促進、地域に根差した商業の推進などがテーマとして掲げられている。こういった大きなまちの動きというのは、現状どういう動きになっているのか、市として、どう捉えているのか。都市計画マスタープランとの整合性や民間企業との連携をどのように進めるかによって小平のまちをより良いものしていく必要がある。
事務局	都市の基盤整備については、平成29年に改定した都市計画マスタープランに掲げており、市を大きく西、中央、東の3つの区域に分けている。西は緑がたくさんある一方で、小川駅を中心とした拠点づくりということで、まさに再開発事業が動き出している。様々な主体の連携により賑わいを創出していく。また行政の施設も再開発ビルに入ることによる利便性の向上や、駅前のロータリーの整備による安心して住めるようなまちという方向性に向け進めている。 小平市の場合は『プチ田舎』と称しているが、都市の良さと田舎の良さを上手く併せ持つということであり、駅を中心とした利便性を高めつつ、緑を守るということのメリハリをつけ取り組んでいく必要性があろうかと考えている。 道路については都市計画道路を通すことによって、幅広い安全な歩行空間、あるいは自転車の通行がしやすくなるということもあり、現状道路の整備も含めて取り組んでいく。 小平市はこれまで都市整備事業にあまり投資してこなかったが、第四次長期総合計画の期間中には、大きな都市計画事業が次々と動き出すこととなる。当然財源も必要になる。財政面でもしっかりと担保しながら計画を立てて進めていくことと考えている。
委員	市民アンケート調査の結果によると、今後生活に求めることとして「心の豊かさやゆとりのある生活に重きをおきたい」との回答が71.1%である。真の心の豊かさを目指していくためにも、根深くある差別や偏見などの人権問題に取り組むことが大切だと改めて思う。DVは重大な人権侵害で、国の最重要課題ともされている。産後支援に関しては、うつ病などで治療や精神面のケアが必要な妊産婦や、母子世帯の状況、児童虐待などに関する小平市の現状を知りたい。 セクシャルマイノリティーに関しては民間が発表したLGBT調査2018年によると、LGBT層に該当する人は8.9%という状況である。性別違和について、就学前に気づくことが25%という調査報告もあるので、小学校の教員、保護者がこういった知識を学ぶ機会を設けることが大切である。
事務局	本日配付した資料では全てを網羅することができないが、補完するという視点で基礎資料集を活用していきたい。また、ご意見をいただいたデータ等については、事務局で対応できる範囲で準備をしたい。
委員	第三次長期総合計画に掲げている将来都市像に関して、具体的に躍動や進化するまちということについてはどのように捉えているのか。また、第三次長期総合計画を推進する上での費用対効果はどうなのか。 社会潮流に関しては、ICTやITといった情報科学技術、働き方改革でテレワークを

	推進していくことやSociety5.0、サイバーフィジカルセキュリティなどに関して、市民の暮らしとの関係性という観点も必要である。
事務局	自治基本条例が制定され、その流れで市民活動支援センターが開設され、市民と行政の協働の体制の基盤ができたということが躍動や進化の一つと捉えている。 費用対効果については、一つひとつを詳細に示すことは難しいが、長期総合計画基本構想審議会の中で審議する資料としてどういったものが準備できるか検討する。 社会潮流に関しては、基礎資料集からの抜粋であるが、基礎資料集ではかなり幅広に提示している。資料で示したキーワードが全てということではなく、委員の皆様からいただくご意見を基に整理したい。
委員	今後高齢化社会の中で、公共施設の更新などを迎え、税収を維持できるように生産年齢人口、企業誘致を図っていくということと、最小の経費で最大の効果を出していくということが重要である。 市民アンケート調査の結果によると、小平市に住み続けたい理由として、自然環境が良い、長年住み慣れていて愛着がある、交通の便が良いという回答が上位に上がっている。これらは積極的に守っていくということになろうかと考える。一方で、小平市に住み続けたい理由になっていない項目について今後検討していく必要があるのではないか。小平らしさについては緑や自然環境、農のある環境、まちなみについてが上位に上がっている。近隣市でも緑や自然環境、農業のある環境というのはあり、小平らしさといえるのか。逆に平櫛田中彫刻美術館や小平ふるさと村など小平市固有のものについて小平市らしさを感じていないということが非常に問題だと感じる。あわせて市内では市民まつりや産業まつり、灯りまつりなど、小平市は祭りが多いにも関わらず、小平らしさを感じていないということについても気になる。このような結果になったことに対して、改善の余地があるのではないか。
委員	現実の捉えということからも、我々が検討する第四次長期総合計画の目標年次である令和 14 年、2032 年頃の市の財政試算を示してもらいたい。公共施設マネジメントでは施設の統廃合も含めて更新が進むのだと思うが、コンパクトにしていくまちづくりのイメージについて共有する必要がある。 小平駅については小平駅南口有料自転車駐車場が更新等の適否の判断対象となっている。商業振興の視点から、地元企業が出店できるような空間になればと思う。北口の再開発事業もあり南北の人の流れも変わる。小平駅南口から続くあかしあ通りも、駐輪場の位置など検討の余地があるのではないか。将来力を入れる部分とまちの憩いの場にする部分などのメリハリが必要だと考える。
委員	小平市の施策は非常に細やかで、とても良いことである。市民との協働事業がかなりあり、第四次長期総合計画にも繋げてもらいたい。 自主防災組織ももっと増やす必要がある。 子育てふれあい広場や児童館も充実していただきたい。妊産婦、出産期からの支援を整え、出産期から子育てを包括的に支援することが重要となってくる。 教育に関しては、小平市はコミュニティスクールが充実しており、小中連携、地域を巻き込んでの教育となっているが基本は保護者である。保護者を含めた地域との

	関係を作っていかなければならない。
委員	市民アンケート調査の結果によると、市の取組に対して緑や水といった面で満足度が高い。しかしながら、交通、都市整備、道路整備、商工業で満足度が極めて低い。小平市には良い点があるのはよく分かっているが、不満足なところを何とかしていかなければならないというのが、市民の声としてあるのだということを我々は強く認識する必要がある。第三次長期総合計画では「住みやすく希望のあるまちをめざして」の分野になるが、事業の実施率と市民の満足度が比例していないことを意識する必要がある。特に若い方の不満足の度合いが高い。若い方の声をもっと取り入れながら議論をしたい。
委員	市民アンケート調査の結果には出てこない、まだ見えない課題もあるのではないか。地域課題、社会課題、網羅性の担保をどうしていくかを最初に調整していくべきと考える。 一方で、長期総合計画、2062 年までを見据えてということになると、現実的にはこれだけ変化が激しい時代において今のニーズがそのまま続くのか、不透明なところもあるかと思う。このあたりは中期実行プランや個別計画などで、柔軟に時期に合わせたものに変化させていくことも必要である。 どこの自治体も空き家の増加や公共施設の更新を大きな課題として捉えていると認識している。空き家については、まちという単位での大きな問題であり、リスクマネジメントの観点からもしっかりと取り組んでいく必要がある。インフラや公共の施設の更新については、民間のノウハウや資金という視点を入れながら、地元の企業も含めて維持、管理していくという機運を高め、取り組んでいくことが重要である。事業そのものに地元の企業や市民が入ることで、ハードを中心に、まちづくりが形成されるという副次効果もあるかと思う。地域課題の一つとして捉えていけると良い。
委員	情報、事実を元にして熱い心を持って基本構想を策定していくということで良いと思う。一方、基本構想は市民による市民のための計画ではあるが、小平市がどういったまちなのか、全国にアピールするツールでもある。基本構想というのはあえて、総花的になるのはある程度仕方がないことで、奇をてらう必要もない。それぞれの市の特性において強弱や優先順位が分かるようにやっていけば良いのだと思う。まず覚えやすいということが大事である。また計画期間が 12 年間ということであるが、12 年後まで将来像であるキーワードの鮮度を維持するというのはなかなか難しいことである。少なくとも人口がピークを迎える令和 6 年までには時代遅れにならないキーワードや課題を取り上げて、政策として打ち立てていく必要があるのではないか。深谷市では新紙幣の肖像となる渋沢栄一のまちで売っている。小平市も新紙幣の肖像となる津田梅子をぜひ入れていくべき。ICT、IOT、Society5.0 などをどこまで小平市の中でできるのかということについて、情報収集しながら、強弱を付けていく必要がある。 災害が起きた時の広域連携、観光振興、インフラツーリズムやガーデンツーリズムといった視点も必要である。道路関係は満足度が低いということがあるが、最近で

	は歩きやすいまちという概念も出てきている。歩きやすいまちというのは、ある意味では寝たきりにならずに、高齢者の方も歩けるようなまちということになるので、そういった観点も必要である。連携する主体についても以前と比較して幅が出てきたと思うので、うまく盛り込んでいけないか。
委員	私どもの組織そのものが、地域にお住まいの皆さんの参加とご協力で成り立っており、私どもの信頼も小平の地域に属する中核的な団体ということで、福祉のまちづくりを進めることにある。こうした中、実感として地域福祉の絆も従前と比べるとやや細くなってきたというような思いを持っている。国では、一億総活躍プランに地域共生社会の実現を盛り込んでおり、住民に身近な地域で、住民が主体的に地域課題を把握して、その課題を解決する体制づくりをする、その中核に私どもの役割があると言われている。私どもとしては、限られた地域ではあるが、数年前からコミュニティソーシャルワーカーを配置して、一定の対応を始めたところで、一緒に取り組んでいただける地域の組織が大変重要である。地域差はもちろんあるが、自治会だけに限らず、地域コミュニティに関して特別な関心を持っている。
委員	誰もがスポーツに親しめる機会の充実、スポーツを通じての仲間づくりや地域づくりということが必要と感じている。 第四次長期総合計画で何を市民と共有するかを考えたとき、緑や資源を保存することやコミュニティの衰退なども視点として必要。相続に伴う事情などで、緑はどんどん減っている。行政と地域が協力してこうした課題に取り組んでいく必要がある。
委員	市民アンケート調査の結果によると、今後、心の豊かさやゆとりのある生活に重きをおきたいが 71.1%という結果となっている。これは世の中高齢者が増えている結果ではないかと考えている。第三次長期総合計画の将来都市像であった、「躍動をかたちに　進化するまち　こだいら」というようなわくわくするような、進化していくまちという要素も大事であり、道路の問題をはじめそういったところが充実していくと、将来的に小平にどんどん若い人が入ってくるのではないかという気がする。市民活動の支援という観点から、もう少し社会貢献活動に参加する人を増やしていかなければならないという時期に入っているので、この辺のレベルを変えていきたい。 子ども文庫という活動をしており、地域の子どもたちが来るのだが、昔からいろんな問題を抱えているお子さんはいたが、近年重症化しているような気がする。妊娠期からの家庭支援がものすごく大事になってきている。そろそろ中学に上がろうかというときに問題が見えてきて、それを周りで何とかしてあげたいと思っても難しい。妊娠期からの家庭支援がもっと大事になってくるのではないか。
委員	第三次長期総合計画では 5 つの分野に分けて施策を位置づけていたが、分野間の関係が見えにくくなるのではないかというところを懸念している。また、行財政運営も、本質機能と表層機能の 2 つの視点で分けて見てみるということも重要なのではないか。本質機能とは、満たして当然の機能で、無いに越したことはない機能が表層機能となる。このような観点から、様々な分野があって入り組んでいるが、少し分けてみることも議論する上では重要と考えている。行政の本質機能としては、セ

	ーフティネットの問題や都市インフラといったところか。一方で、緑ということに対して満足感は高いが、玉川上水やグリーンロードが無くても普通の生活はできるし、そういうものが無いまちというのはたくさんあることから表層機能といえる。また、公共施設のように、ある一部は本質機能であり、ある一部は表層機能だということもあるかもしれない。そういうものをきちんと分けて構想の議論を進めていくことが大事ではないか。
会長	ビジョナリーというのは先見の明のある人、という意味で、私たち皆がビジョナリーになって、先見の明を持ちながら、持つように努力しながら、これからの基本構想を考えていけると良い。2024 年から津田梅子が 5 千円札に採用されるということもあり、女性が活躍する場であるということも、小平市の一つの重要な特色として打ち出せていけたらと考えている。
閉会	